
私、サイボーグになって現代に戻ってきました

窪まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私、サイボーグになって現代に戻ってきました

【Nコード】

N8261Z

【作者名】

窪まり

【あらすじ】

5年間、かずみと同棲した未来から来たアンドロイドにあうため自分の肉体を冷凍保存して200年後の未来に行った。彼女はサイボーグとして蘇った。200年後の世界は、どんな社会なのか不安と期待が入り交じる。だが、5年間、同棲したアンドロイドの正体を知って驚いた。そして、21世紀初期の現代に戻る。百合描写がありますので、苦手な方は、移動してください。

私、未来に行きました。

かずみ20歳は、200年後の未来から来たアンドロイド199Jpと5年間、同棲し百合関係を続けた。そして、再び時空の歪みが生じて、アンドロイド199Jpは未来へ帰ってしまった。

かずみは25歳になり、はじめて性風俗デビューすることになった。そして5年後、30歳になったとき、奇跡的に宝くじで1億円が当たり、自分の身体を冷凍保存するために渡米した。

大量の睡眠薬を飲み自殺した。遺書には、「私が死んだら、わたしの身体を200年後の未来になったら、再生できるように冷凍保存してほしい」という内容だった。

かずみが再生されたとき、冷凍保存のため脳だけしか再生できる細胞がなく、身体全体が人工有機？で構成されたサイボーグとして蘇った。

今までアメリカの某ホテルの部屋で寝たと思ったら、目が覚めたとき、周囲は見たことないような風景だった。周囲には見たことがない白い箱（たぶん機械）がたくさんあり、空中にいくつものスクリーンが映し出された。かずみは自分は、ついに念願の200年後の未来に来たと喜んだ。

「アンドロイド199Jpに会いたい」と心の中で願った。

周囲にはいろんな人種の人たちが、肌に密着するような白い服を着ていた。現代人から見れば、異様なデザインである。

かずみは、ある程度までなら英会話でき、英語も聞き取れるが、かずみの周りにいる人は、なに言っているのか理解できなかった。

「おっはー。ようこそ」と英語で話しかけられた。

褐色の肌の女性が、かずみの手を取った。そしてゆっくり立ち上がった。

「あの今は西暦何年ですか？」と英語で訪ねた。

褐色の肌の女性は、かずみの英語が理解できないので、もう一度、ゆっくり話しかけて欲しいような雰囲気でした。褐色の肌の女性は、ペラペラした薄い紙ディスプレイをもってきて、指で質問を書いて欲しいような仕草をした。

かずみは、指で英語で「今、西暦何年？」と書き、それを呼んで褐色の肌の女性は、ディスプレイに「西暦2197年」と書き記した。

「やったー！ついに未来に行けた」

2000年近く死んでいたので、全く夢がない睡眠のようだった。アメリカの某ホテルのベットで寝たと思ったら、目が覚めたら、一瞬で周囲は、理解できない物ばかりだった。

「私、アンドロイド199Jpに会いたい。どこにいるの？」と尋ねたら、

褐色肌の女性は「あなたがアンドロイド199Jpです」と言われた。

実は、かずみそのものがアンドロイド199Jpになっていた。

かずみの希望どおりに、かずみの身体は冷凍保存され、2197年のある日、理想的な身体として蘇った。身長はやや低く（170センチから165センチ）なり、顔も女っぽい顔になった。髪の毛が長くなり、ある日本人アイドルの顔をモデルにした顔になっていた。とてもかわいらしい顔になっている。

全身を映す鏡をみて、自分の姿を見て、うっとりした。

「肌がすべすべ。ツルツルしている。この辺にいた女子高生よりもきれい。スタイルも顔も理想的。まさに芸術！」と喜んだ。

元々スタイルが良かったが、もっと理想的な身体になり、バストが大きくなり、ウエストがより細くなった。顔とスタイルが変わった。何か違和感を感じると思ったら、自分の身体に性器も肛門もないことに気がついた。

かずみは、そのことについて悲しんだ。性器がないことはオ。ニーができない。

肛門がないから食事もお酒も飲むことできない。

あの5年間の生活は、実は自分自身とのエッチな行為だったと思った。

「あの5年間は、私そのものとエッチな事を毎日していたのね。どうりで私の趣向を上手く読み取っているから、良くできたアンドロイドだと思ったが、実は私の脳で動くサイボーグだったのね」

「遅かれ早かれ、再び21世紀の私が住んでいたアパートの部屋に

戻る。私、自身との百合関係が始まるのね」

「でも、食事もできない。お酒も飲めない。性器がないからオナニ
ーもできない。これから私はどうするの？」と悩み、

褐色肌の女性に、食事とお酒について尋ねた。

彼女はペラペラした紙ディスプレイを持ってきて、「逆に無駄が省
けて合理的。食事をしたいと思ったら、サーボグ用のガムを噛め
ばよい。脳に美味しい味と満腹感をあたえるから。お酒が飲みたけ
れば、コンローラーでお酒飲んだ気になれる」と21世紀の英語、
褐色肌の女性にとっては古い英語に訳された文字がでてきた。

かずみは日本語で自由に会話したいと思った。

少し恥ずかしそうな表情で、かずみは褐色肌の女性に尋ねた「オ。
ニーは、どうしたら良いの？」褐色肌の女性は「時間の無駄。もっ
とこの社会には楽しいことがある。でも、どうしても性的快感を感
じたいなら、バーチャルリアリテイセンターに行けば脳を刺激して
オ。ニーよりも気持ち良いことができる。また、なりたい自分にな
れる」と言った。

いずれ、もとの私のアパートに行く宿命がある。確実に、私自身と
の再会がある。未来社会の生活に慣れる必要がある。どんな社会な
んだらうか期待と不安が入り交じった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261z/>

私、サイボーグになって現代に戻ってきました

2011年12月26日06時47分発行